

2008年3月期 決算概要

2008年5月14日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2008年3月期 の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2008年3月期 業績概要

- 第4四半期も引続き営業黒字を確保
- 年間では、着実な経営効率改善により、営業利益51億円を達成
- 海外子会社の繰延税金資産に評価引当金を計上

II. 2009年3月期 業績見通し

- 円高のマイナス影響が大きいが、当初経営目標である最終損益黒字化を目指す（1\$=100円前提）

III. 中期業績改善に向けた取り組み

- 費用構造改善と売上成長で10年3月期の売上高営業利益率5%を目指す

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、08年3月期の業績は、第4四半期も営業黒字を継続し、年間では51億円の営業黒字を確保することができました。

次に、09年3月期の業績見通しでございますが、今回の業績予想は1ドルを100円の前提といたしました。円高によるマイナスの影響を大きく受けますが、従来から申し上げておりました最終損益での黒字化を目指してまいります。

最後に、2010年3月期での売上高営業利益率5%に向けた取り組みをご説明申し上げます。

I. 2008年3月期 業績概要

<サマリ> <第4四半期> <通期>

II. 2009年3月期 業績見通し

III. 中期業績改善に向けた取り組み

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

08/3期 業績の概要

NEC

(単位:億円)	08/3期					
	4Q, 3/31			年度計, 3/31		
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年度比	期初予想比
売上高	1,660	△54	△48	6,877	△45	△23
半導体売上	1,554	△53	△83	6,533	△65	△167
営業利益	2	+180	△28	51	+337	+51
税前提利益	△67	+196	△84	△33	+321	+67
当期純損益	△120	+163	△111	△160	+255	△10
フリーキャッシュフロー	△38	+138	△28	55	+173	-
D/Eレシオ	0.51倍	-	-	0.51倍	-	-
株主資本比率	36.9%	△1.2%p	△1.9%p	36.9%	△1.2%p	-
為替レート	1US\$=109円 1Euro=160円	対US\$ 10円高 対Euro 4円安	対US\$ 5円高 対Euro 3円高	1US\$=116円 1Euro=161円	対US\$ 1円高 対Euro 12円安	対US\$ 1円安 上期)対Euro1円安 下期)対Euro6円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

4

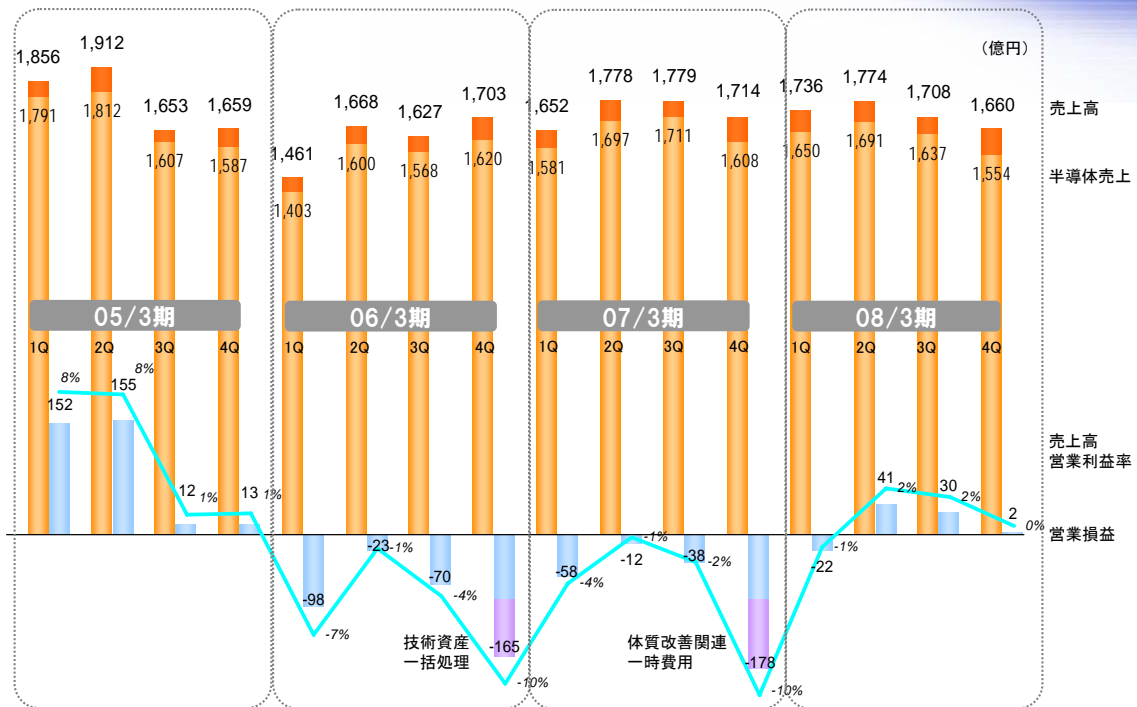
まず、実績のサマリでございます。

2008年3月期の売上高は前年度との比較で45億円減収の6,877億円となりました。営業損益は前年度比では337億円改善し51億円の黒字となり、1年前にお約束した営業利益でのブレークイーブンを若干上回ることができました。

当期純損益は、前年度から255億円改善したものの、160億円の赤字となりました。

フリーキャッシュフローは55億円の収入、株主資本比率は37%となりました。

四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移をみてみますと、第4四半期は、為替の影響や売上の減少がありました。カスタム製品の開発費回収を進めたこともあり、わずかではございますが引き続き営業黒字を維持いたしました。

I. 2008年3月期 業績概要

<サマリ> <第4四半期> <通期>

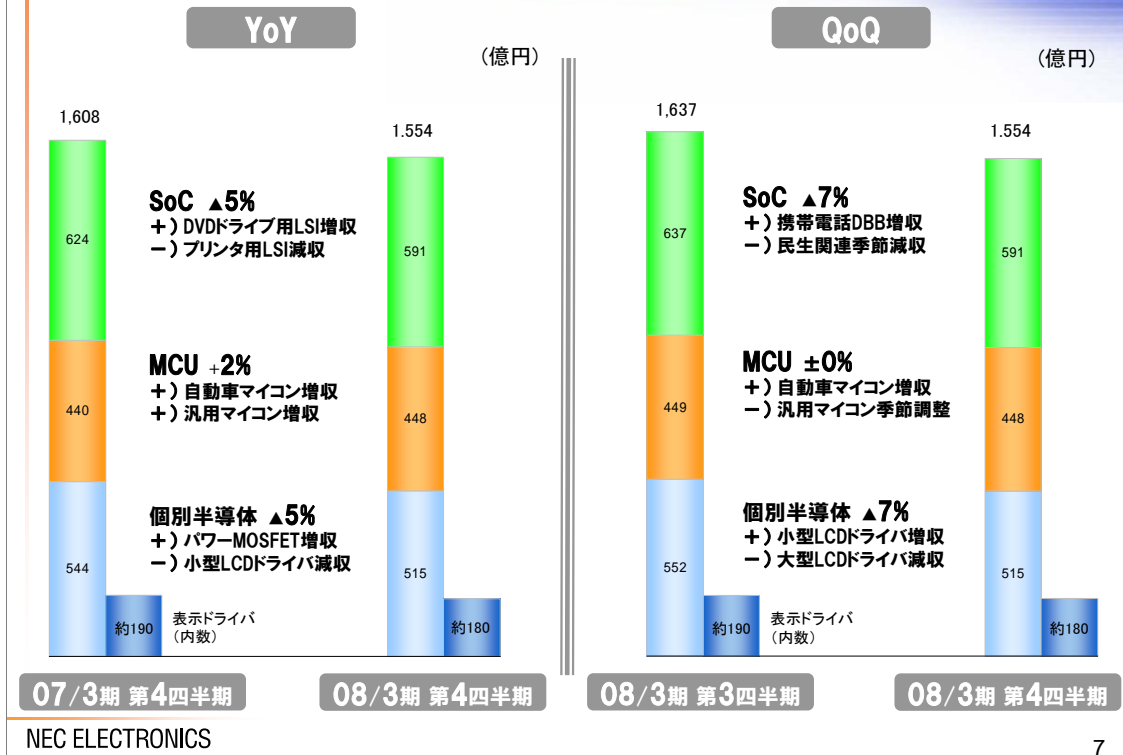
II. 2009年3月期 業績見通し

III. 中期業績改善に向けた取り組み

まず、2008年3月期の第4四半期について、簡単にご説明いたします

第4四半期 半導体売上高(製品別)

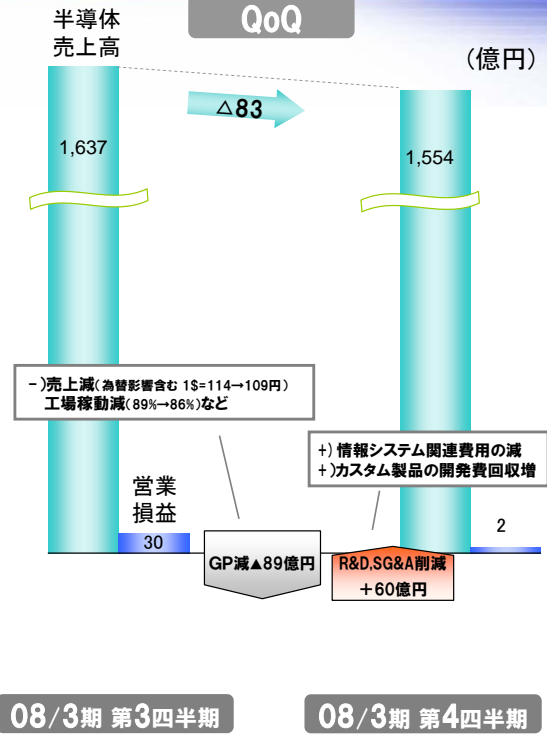
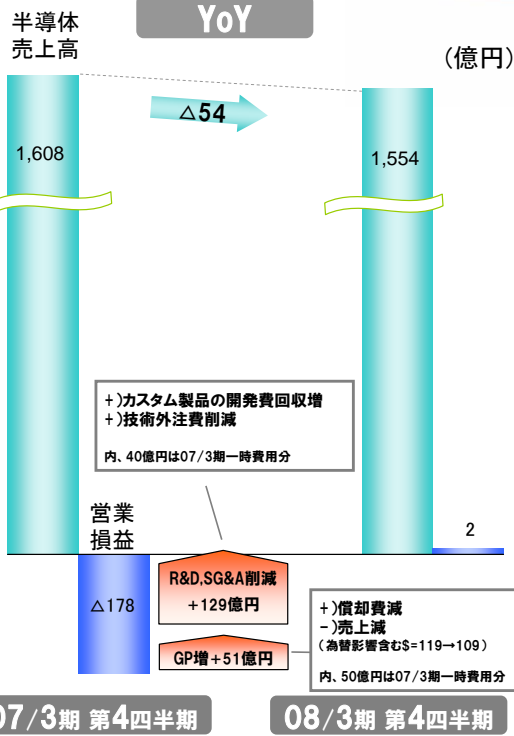
NEC



7ページは第4四半期の半導体売上高についてお示しています。

前年同期と比べて3%の減収、前四半期(3Q)と比較して5%の減収となりました。どちらも、SoCおよび個別半導体が減収、MCUは前年同期と比べて2%の増収、前四半期(3Q)との比較では横ばいとなりました。

営業損益の主な増減要因



8ページは、第4四半期の営業損益を前年同期および前四半期と比較したものです。

前年同期比・前四半期比ともに売上減や為替の影響を受けたものの、開発費の回収を進めたこともあり、営業黒字を維持することができました。

営業外損益・法人税等

NEC

(単位: 億円)	07/3期		08/3期		
	年間	9ヶ月累計	第4四半期	年間	
	実績	実績	実績	実績	期初予想
	△68	△14	△70	△83	△100
営業外損益	主な雑収益	フォトマスク事業譲渡 >当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡 (2007年6月)			
	主な雑損失	インドネシア工場閉鎖費用 >挿入実装型パッケージ後工程工場 >2007年11月から清算手続き開始 生産再編関連費用 >固定資産廃棄・売却損等	早期退職関連費用 >国内人員685人が本制度を活用 インドネシア工場閉鎖費用 生産再編関連費用		
法人税等	△51	△69	△54	△123	-
			アメリカ子会社の繰延税金資産に引当金(約70億円)計上		

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

NEC ELECTRONICS

9

9ページでは第4四半期の営業外損益と法人税等についてご説明致します。

営業外損益につきましては、早期退職プログラムによる一時費用やインドネシア工場の閉鎖費用などを雑損失に計上いたしました。

また、アメリカ子会社の繰延税金資産に対する引当金等により、54億円の「法人税等」を計上いたしました。

I. 2008年3月期 業績概要

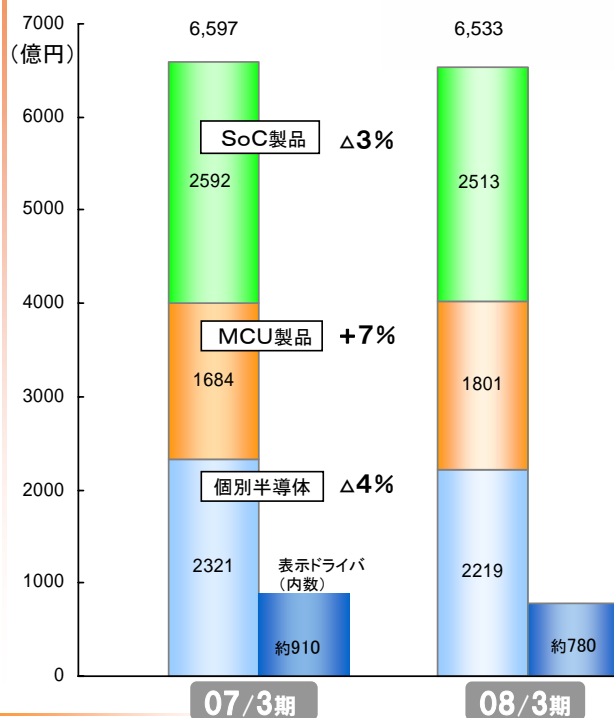
<サマリ> <第4四半期> **<通期>**

II. 2009年3月期 業績見通し

III. 中期業績改善に向けた取り組み

次に、2008年3月期、通期での業績概要についてご説明いたします。

08/3期 半導体売上高



主な変化要因	
SoC製品	+) デジタルAV機器向けEMMAの売上拡大 +) ゲーム向けシステムLSIの売上増 -) デジタルカメラ、プリンタ向けLSIの売上減
MCU製品	+) 日本・ヨーロッパを中心に自動車向けマイコンの売上拡大 +) オールフラッシュの売上拡大
個別半導体製品	+) 大型LCDドライバの売上増 +) パワーMOSFET 高周波トランジスタ(化合物半導体)シェア拡大 -) 小型LCDドライバの大幅売上減

NEC ELECTRONICS

11

2008年3月期の半導体売上高は前年度と比べて1%減少の6,533億円となりました。

製品群別に見ますと、

SoCは、デジタルテレビ向けなどのEMMAや、ゲーム機器向けの売上拡大がありました。携帯電話用メモリやデジタルカメラ、プリンタ向けの売上減少により、全体では前年度比で3%の減収となりました。

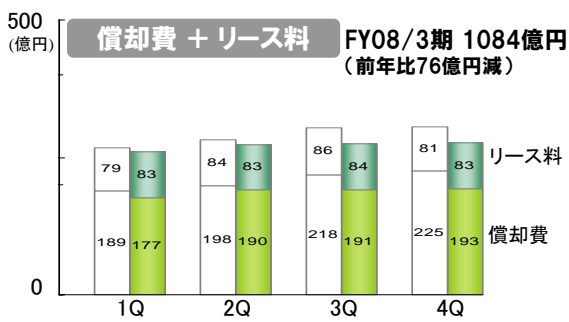
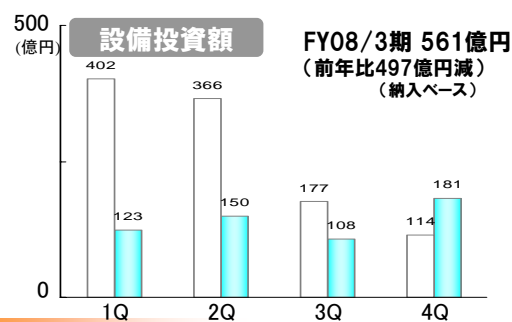
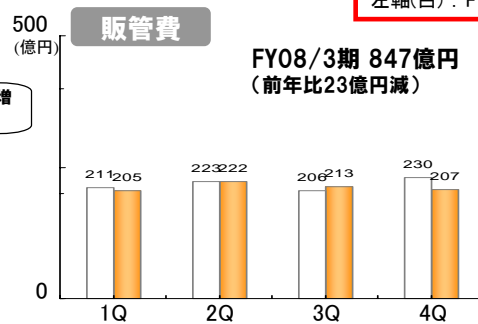
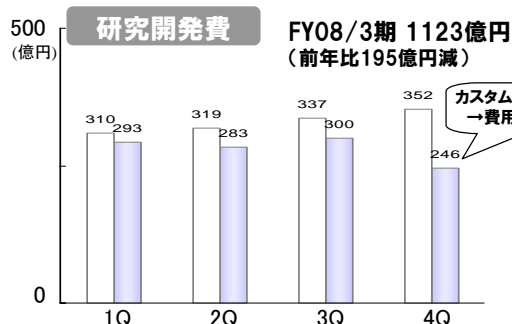
MCUは、日本、ヨーロッパ向けの自動車向けマイコン、戦略商品であるオールフラッシュマイコンの売上増により、前年度比で7%の増収となりました。

個別半導体は、大型LCDドライバやパワー半導体、化合物半導体が増収となったものの、小型LCDドライバの売上減により、前年度比で4%の減収となりました。

営業費用・設備投資など

－ 各種施策を着実に実行し前年度比220億円の固定費を削減
(期初目標は200億円削減)

グラフの凡例
右軸(色) : FY08/3期
左軸(白) : FY07/3期



NEC ELECTRONICS

有形のみ

償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
償却費はキャッシュフロー表ベース

12

次に営業費用等についてご説明いたします。

まず、期初に前年度比200億円の固定費削減を目標に掲げましたが、
人件費の削減なども含め220億円の削減を実施いたしました。

研究開発費は、技術外注費の効率化や、第4四半期にカスタム製品の開発費の回収を進めたこともあり、前年度比195億円減の1,123億円となりました。

設備投資は徹底した効率化を行い、561億円と前年度から約500億円削減いたしました。
これにより、償却費とリース費の合計が前年度比76億円減少の1,084億円となりました。

I. 2008年3月期 業績概要

II. 2009年3月期 業績見通し

III. 中期業績改善に向けた取り組み

それでは、2009年3月期の業績見通しについて、ご説明いたします。

当初の経営目標である最終損益黒字化を目指す

(単位:億円)	08/3期			09/3期			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
	実績	実績	実績	予想	予想	予想	前年比
売上高	3,510	3,368	6,877	3,350	3,500	6,850	△27
半導体売上	3,341	3,192	6,533	3,200	3,300	6,500	△33
営業損益	19	32	51	30	70	100	+49
税前損益	18	△51	△33	0	40	40	+73
当期純損益	△30	△130	△160	△20	20	0	+160

為替レート

1US\$=	120円	112円	116円	100円	100円	100円	16円高
1Euro=	162円	161円	161円	160円	160円	160円	1円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:予想値は2008年5月14日現在

今年度の業績予想の前提は1ドル100円、ユーロは160円です。

円高の影響を受け、最終損益の黒字化へのハードルは低くありませんが、これまで私が目指してきた今年度の当期純利益ベースでの黒字化を何としても達成するという強い意思を持って、事業運営を行っていきたいと考えております。

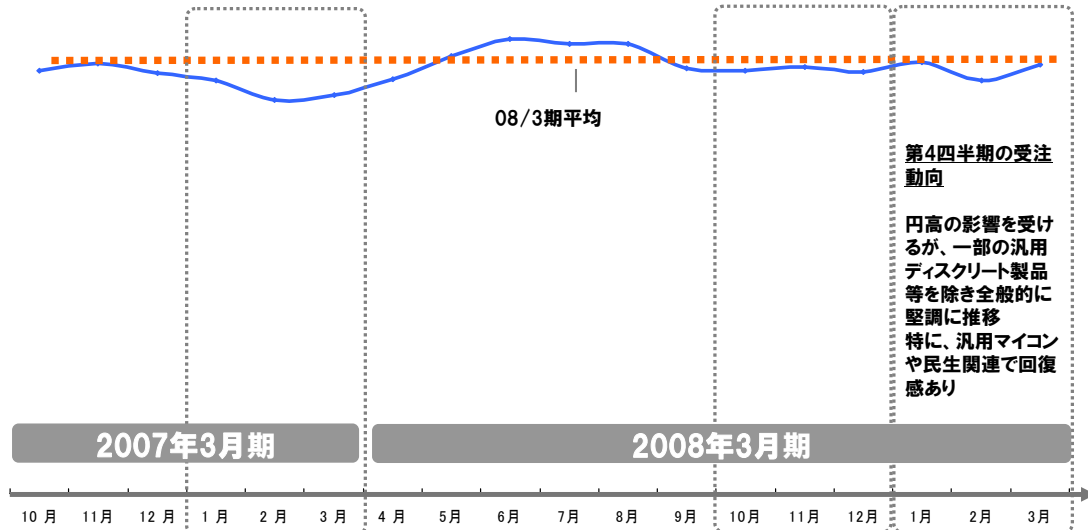
上から2段目の半導体売上高は6,500億円と、昨年度と比べてほぼ横ばいと考えております。

営業利益は100億円、税引前利益は40億円、当期純利益は0を見込んでおります。

その前提などをこれからご説明いたします。

半導体受注高の推移

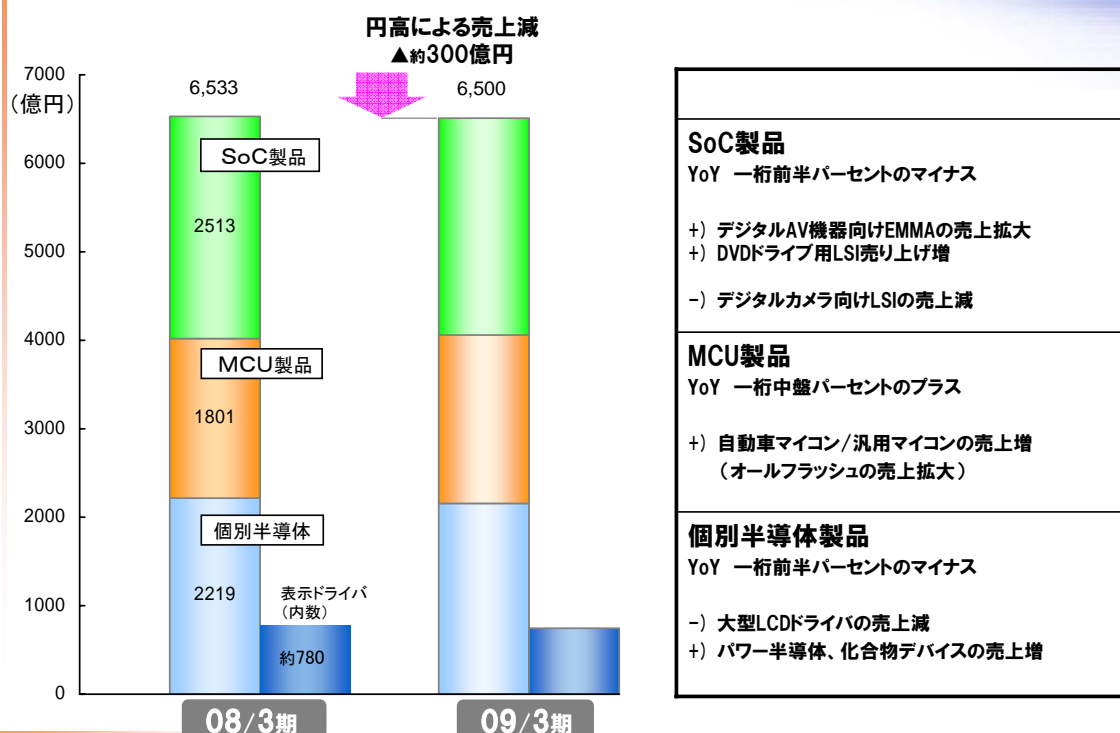
受注高(3ヶ月移動平均)



16ページは、直近の半導体受注高を3カ月移動平均で示したものです。

原材料の高騰の影響度やオリンピック後の景気動向などは現時点で不透明ですが、本年1月から3月までの3カ月は、円高の影響を受けたものの全般的に堅調に推移しています。

09/3期 半導体売上高見込み



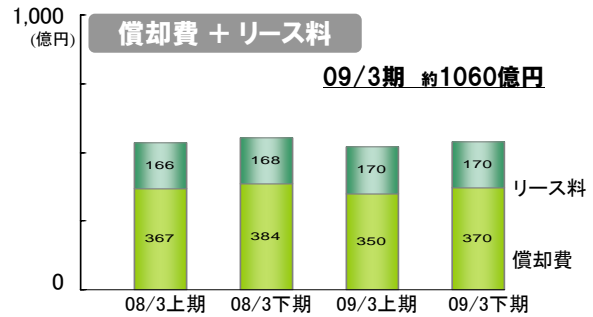
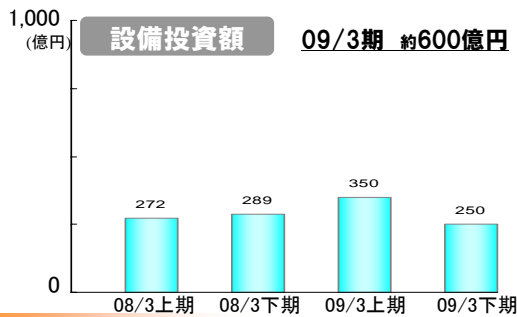
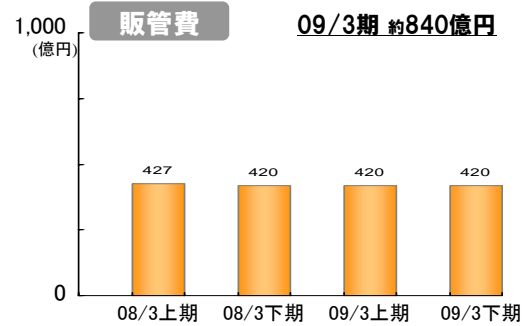
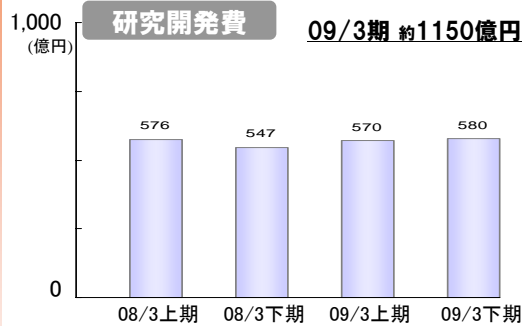
<p>SoC製品 YoY 一桁前半パーセントのマイナス</p> <p>+ デジタルAV機器向けEMMAの売上拡大 + DVDドライブ用LSI売り上げ増</p> <p>- デジタルカメラ向けLSIの売上減</p>
<p>MCU製品 YoY 一桁中盤パーセントのプラス</p> <p>+ 自動車マイコン/汎用マイコンの売上増 (オールフラッシュの売上拡大)</p>
<p>個別半導体製品 YoY 一桁前半パーセントのマイナス</p> <p>- 大型LCDドライバの売上減 + パワー半導体、化合物デバイスの売上増</p>

今年度の半導体売上を、製品別に示したのが17ページです。

仮に昨年度と為替が同じ条件であると仮定した場合、言わば名目ベースでは、今年度の半導体売上は、特にEMMAやDVDドライブLSI、MCUの全般的な売上拡大により、前年と比べて約4%の成長が見込めたと考えております。

しかし、1\$=100円ベースでは、円高により約▲300億円の押し下げの影響を受け、前年度比ほぼ横這いにとどまる見込みです。

徹底した効率化を継続しつつ、将来の成長に向けた投資を実行



NEC ELECTRONICS

有形のみ

償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
償却費はキャッシュフロー表ベース

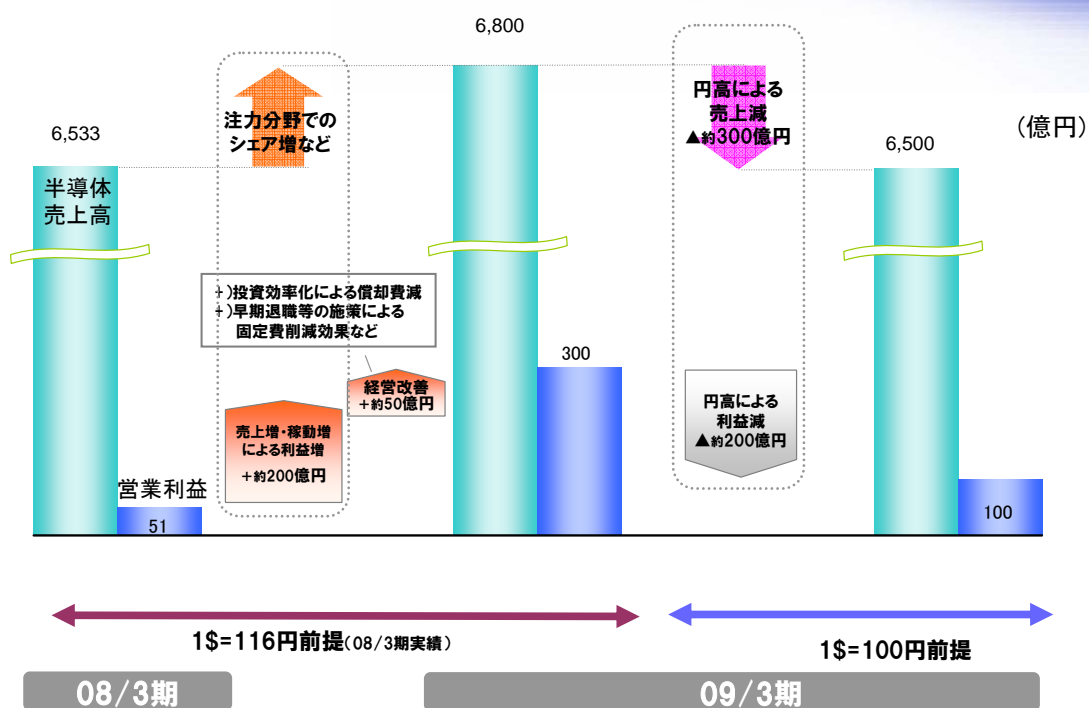
18

18ページは、今年度の業績予想の前提となっている営業費用、設備投資額などをまとめてお示したものです。

研究開発費は前年とほぼ同レベルの1,150億円、設備投資は600億円を前提としております。設備投資を効率的に行っているため、減価償却費およびリース料の合計は1,060億円となり、昨年度と比べて30億円程度減少すると見込んでおります。

09/3期 営業損益

NEC



NEC ELECTRONICS

19

19ページでは、今年度の営業利益の考え方についてご説明致します。

まず、為替が昨年度と同じであるという前提では、売上増・稼働増による限界利益増と体質改善施策の効果等により、約300億円の営業黒字となる計算であります。

しかしながら、業績予想前提を1\$=100円としたことによって約200億円の利益が押し下げられることとなり、結果として100億円の営業黒字となります。

I . 2008年3月期 業績概要

II . 2009年3月期 業績見通し

III . 中期業績改善に向けた取り組み

最後に中期業績改善に向けた取り組みについてご説明致します。

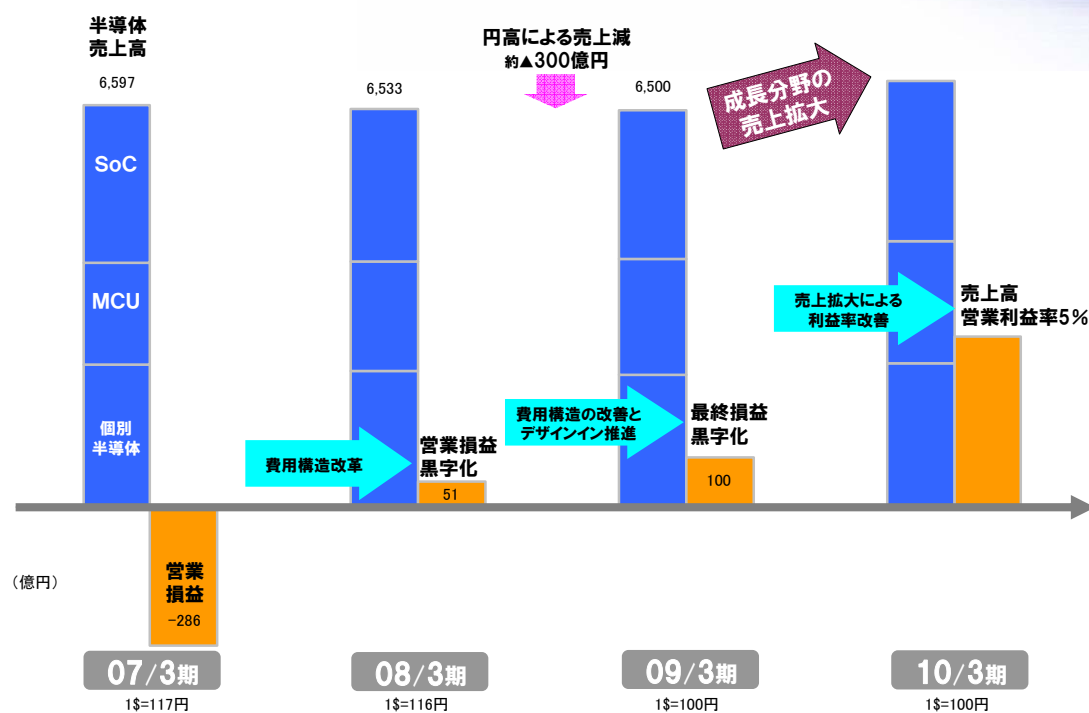
過去の体質改善施策

主な内容		進捗等
開発 ポートフォリオ 再構築	約600人相当の技術外注削減	実施済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	実施済み
生産体制再編		一部ラインで設備移設と生産移管を実施中
前工程	<ul style="list-style-type: none"> ▶九州8インチ、関西8インチの能力増強 ▶山形8インチ、関西6インチ、九州6インチ 各ラインの集約、大口径ラインへの生産移管 	山形8インチ 08年12月閉鎖予定 九州6インチ 10年9月閉鎖予定 関西6インチ 時期等見直し
後工程	汎用製品の海外シフト	
事業組織体制	SoC、MCU、個別半導体の3事業をビジネスユニット化、損益管理強化	制度の構築完了 運用中
固定費削減	技術外注費削減、設備投資等の削減による生産関連固定費減、人件費含むその他固定費削減	実施済み 08/3期 前年度比220億円削減
追加施策 (2007年11月発表)	早期退職プログラム導入による人員削減	685人が本制度を活用し退社
	相模原300mmラインの閉鎖 先端開発機能を山形に移管	今年度中に閉鎖予定
	国内生産子会社をビジネスユニット毎に再編 6社→3社 製品群別の一貫した開発・製造の流れを構築	4月1日から新体制に移行。運用中

これまでお示してきた体質改善プランは、21ページのスライドの通り着実に実行中であり、

中期計画の概要

NEC



NEC ELECTRONICS

22

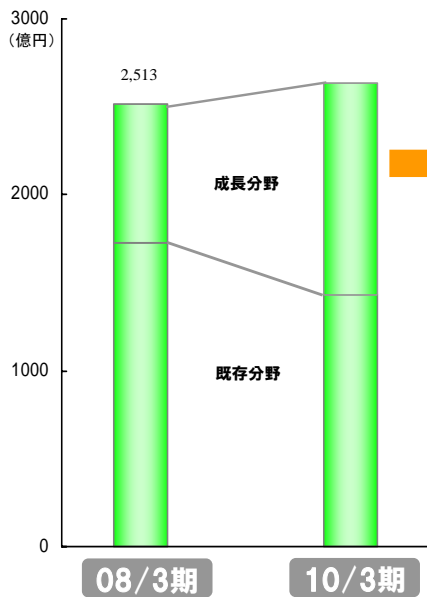
22ページは当社の中期計画の概要でございます。

昨年度は着実な費用構造改革により営業黒字を回復致しましたが、当社は、今年度(09/3期)の最終黒字化を経て、来年度(10/3期)の売上高営業利益率5%を目標にしております。

今回、1\$=100円を前提としたことで、売上高と収益が大きく押し下げられることとなりますが、生産再編を中心とした施策の効果が損益構造の改善として現れて参りますし、来年度の売上成長を支えるプロジェクトが着実に進んでいることから、従来目標の営業利益率5%に向けて引続きまい進して参ります。

次項以降で各ビジネスユニットごとの売上成長についてご説明致します。

売上成長を牽引する大型プロジェクト群が着実に進行中



デジタルコンシューマ用LSI

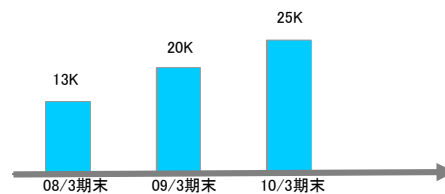
- 携帯電話分野はカメラ等特定機能LSIを集中強化
複数の大手海外メーカーのグローバルモデル(カメラ付携帯)商談獲得済み
- デジタルAVプラットフォームEMMA
ブルーレイDVD市場でもシェアNo1を確保する商談獲得済み
デジタルテレビも顧客が国内外で拡大

DRAM混載LSIの市場急拡大

- 55nm,さらに40nmによるローコスト化と大容量対応(業界最高の384Mb)が可能となり、画像関連の新規分野(DTV/携帯電話等)へ事業展開
- 世界No1の生産実績を武器に、国内外10社から商談獲得済み

山形12インチ(300mm)ライン能力計画

- 今期投資600億円の枠内で月産20K枚に増強
(一部、相模原R&Dラインの設備活用)
- 単一フロアの12インチロジック生産ラインとしては世界最大クラスへ



NEC ELECTRONICS

23

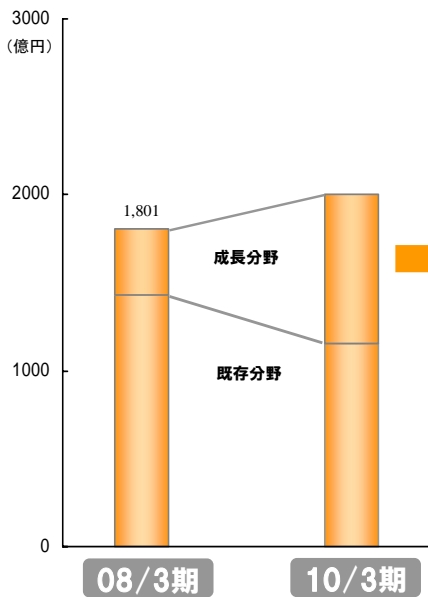
まずはSOCであります。

デジタルコンシューマLSIでは、携帯電話カメラ用LSIが海外のお客様のグローバルモデルに搭載が決まっており、EMMAもブルーレイDVDやデジタルテレビでの売上拡大が見込めます。

DRAM混載LSIについては、55nm,さらには40nmプロセスによりローコスト化や大容量化が進むことで、デジタルテレビや携帯電話を始めとした画像処理関連の新規分野が急速に立ち上がって参ります。ご存知の通り、当社はDRAM混載LSIの先駆けであり、これらの実績を活かし、既に10社のお客様から採用内示を頂いております。

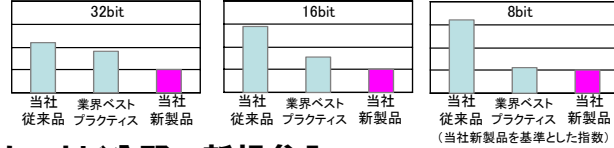
これらの売上拡大を生産面でサポートしていくため、山形300mmラインの生産能力を今年度末時点で月産20K枚まで増強いたします。これは相模原R&Dラインの設備を一部活用することなどにより、今年度600億円の設備投資のワク内で行う計画です。

自動車と汎用マイコンで確実な成長



超低消費電力エコロジーマイコン

▶ 当社独自のローパワー技術を結集したオールフラッシュマイコン投入



カーナビ分野へ新規参入

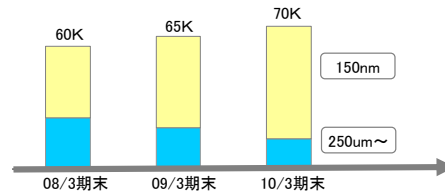
- ▶ マルチコア技術を車載対応55nmプロセスで製品化
- ▶ 複数の大型商談を獲得済み

微細化によるさらなるコスト競争力強化

- ▶ 150nm製品のラインナップ拡充(500製品)と生産能力拡大
- ▶ 車載対応90nmフラッシュマイコンの投入

九州8インチライン能力計画

- ▶ 能力拡大と共に150nm比率を引き上げ



24ページはMCUです。

MCUについては引続き、自動車と汎用マイコンの二本柱で確実に成長していきます。

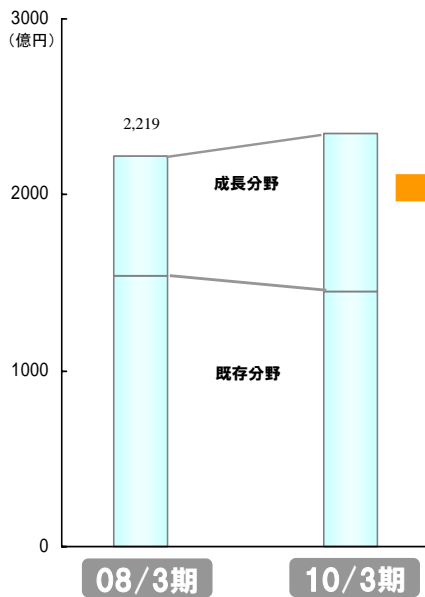
まずは、当社が得意とする低消費電力技術を結集したエコマイコンを32～8ビットの各製品群で投入してまいります。スライドの表でお示ししている通り、このエコマイコンは、当社従来品との比較ではもちろんのこと業界のベストプラクティスを凌ぐものであります。

また、新規参入となるカーナビ分野では、いち早く最先端の55nmを適用し、複数の大型商談を獲得しております。

さらに、オールフラッシュマイコンの主力プロセスである150nmの生産能力を九州8インチラインで増強するとともに、一部の車載マイコンでは90nm化を進め、さらなるコスト競争力の強化と売上拡大を確実なものにしていきます。

中期売上成長 個別半導体

「強い製品」への特化と、
大口径化と外部生産活用によるコスト競争力強化



パワー半導体 (パワーMOSFET, システム電源ICなど)

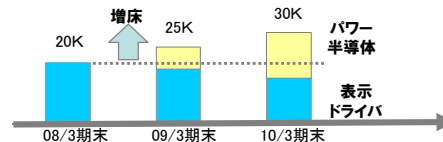
- 自動車・PC・バッテリー機器向けにフォーカス
- システム電源はインテル規格端末 (MID) のリファレンスとして採用決定
- 関西8インチラインを増床(プラス月産10K枚)し主力基地化

化合物半導体

- 世界シェアNo1製品の更なるシェア拡大
 - ・ガリウムひ素スイッチIC 世界シェア25% (07年当社調べ)
 - ・携帯電話と無線LAN市場の急拡大
 - ・大手無線LANチップセットメーカーとの共同開発でデファクト化
- ・汎用フォトカプラ 世界シェア20% (07年当社調べ)

関西8インチライン能力計画

- パワー半導体の8インチ化推進
- 表示ドライバは10/3期から外部生産を拡大し微細化を推進



次に個別半導体です。

まず、パワー半導体は、自動車・PC・バッテリー機器へフォーカスすることにより着実に市場シェアを拡大しておりますが、関西8インチラインを増床し主力工場とすることでコスト競争力を向上させる計画です。

また化合物半導体はガリウムひ素スイッチICや汎用フォトカプラなどで世界シェア1位を堅持しさらなるシェア拡大を目指します。特にフォトカプラは高速版等を含めた市場全体でもシェア1位が見えてきております。

関西8インチラインはパワー半導体比率を高めていく計画であります。従来生産していた表示ドライバはアウトソースを活用しプロセス微細化を進めてまいります。

昨年度(08/3期)は着実な経営効率改善により営業黒字を回復

引き続き、今年度(09/3期)の最終損益黒字化を目指す

来年度(10/3期)の売上高営業利益率5%に向けさらなる経営努力を行う。売上成長を支える新規プロジェクトが着実に進行中

最後に本日のまとめでございます。

昨年度(08/3期)は着実な経営効率改善により営業黒字を回復いたしました。

為替のマイナス影響がありますが、引き続き、今年度(09/3期)の最終損益黒字化を目指してまいります。

さらに来年度(10/3期)での売上高営業利益率5%達成に向け全社一丸となってまい進して参ります。

今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。本日は有難うございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

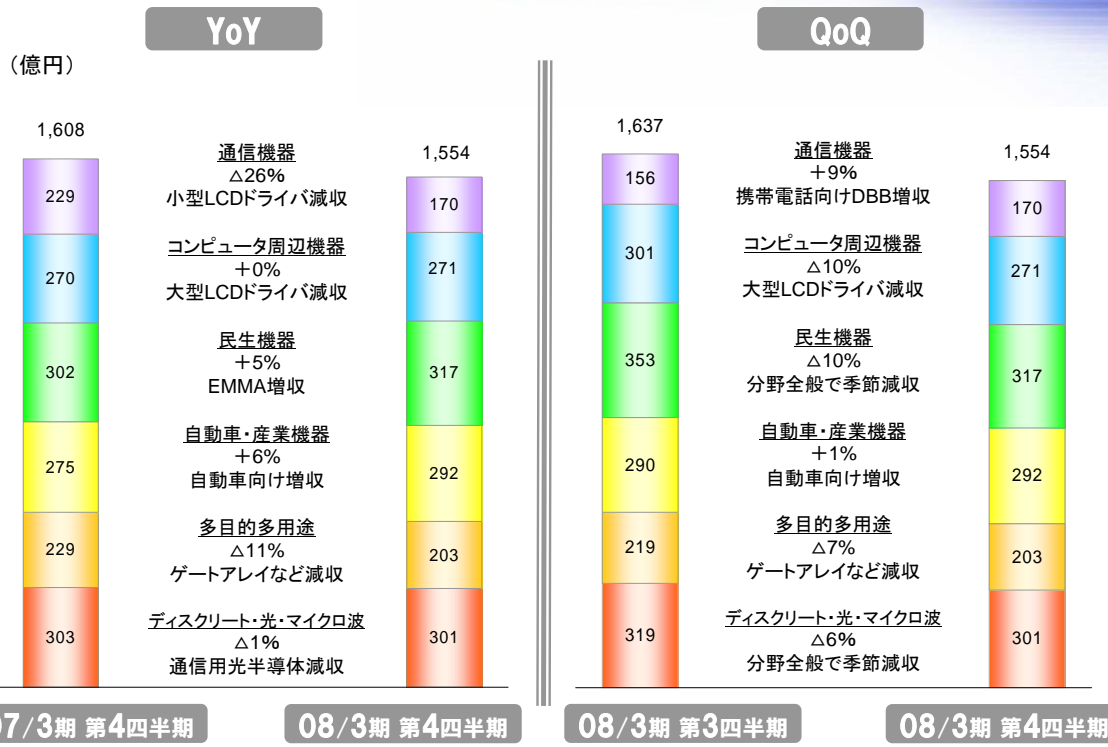
(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

補足資料

第4四半期 半導体売上高(分野別)

NEC



07/3期 第4四半期

08/3期 第4四半期

08/3期 第3四半期

08/3期 第4四半期

NEC ELECTRONICS

バランスシート

NEC

(単位:億円)		07/3	07/12	08/3
現金および現金同等物		1,854	1,889	1,655
受取手形および売掛金		995	926	964
たな卸資産		792	811	758
有形固定資産		2,962	2,738	2,591
その他の資産		356	313	195
総資産		6,959	6,676	6,163
支払手形および買掛金		1,325	1,174	1,073
社債および借入金		1,360	1,320	1,166
その他の負債		1,575	1,543	1,601
負債		4,260	4,037	3,840
少数株主持分		48	51	52
株主資本		2,651	2,588	2,271*
負債、少数株主持分および資本合計		6,959	6,676	6,163

*その他包括損益累計額の減少等による

D/Eレシオ(グロス)	0.51倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率	38%	39%	37%

<補足>

繰延税金資産	107	108	30
繰延税金負債	109	141	111

NEC ELECTRONICS

30

年間フリー・キャッシュ・フローも2年ぶりに黒字回復

(単位：億円)	07/3期		08/3期		
	4Q	年度計	3Q	4Q	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	127	667	136	5	433
投資活動による キャッシュ・フロー	△303	△785	△147	△43	△378
フリー・ キャッシュ・フロー	△176	△118	△10	△38	55